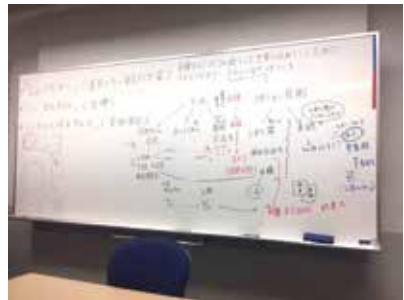


# 西陣のモノづくり産業の見える化と 交流促進を通じた地域活性化

## 1 目的・概要

西陣地域といえば、多くの方が西陣織と答えるだろう。しかし、今その西陣織産業は低迷状態にある。これは、着物文化の衰退や後継者不足など、様々な要因から考えられる。一方で、この西陣地域では西陣織以外にもたくさんのモノづくりが行われている。そこで私たちは、西陣織が築き上げてきた伝統と基盤のある西陣地域が、西陣織を含む様々なモノづくりが行われている「モノづくりの街」として新たに活動することが出来れば、内外部に魅力あふれる地域として伝わり、活性化するのではないかと考えた。

しかしこれは長い期間を要する課題であり、私たち履修生が1年間で何をすることができるかと考えていた時、地域の方々にインタビューすると、そもそも周囲でモノづくりをしている人と話す機会がないという風に伺った。そこで、まず我々は西陣の横と縦のつながりをつくることを目指し活動することにした。ここでいうつながりとは、横がモノづくりに携わる方々同士のつながりを指し、縦は世代間を超えたつながりを指す。そして、これらのつながりをつくることで、以下の流れを生み出すことを目標とした。



まず横のつながりをつくることで、西陣地域全体での「モノづくりの街」に向けた活動の基盤を作っていく。そして西陣のモノづくりに携わる人々と子供が関わる場所を生み出し、縦のつながりをつくることで子供に「西陣の街」の良さを感じてもらい、同時にこの経験が次世代の西陣を支える人材の育成へと繋がることで、活性化への流れが生み出されると見込んだ。最終的にはこのつながりを持って、西陣の「モノづくりの街」としての魅力が伝わり、内外部で盛り上がりを見せることが、この西陣地域の目指すべき活性化であると位置づけた。

### Annual Schedule

2017年	4月	フィールドワーク	西陣の現状を知るための活動	
	5月	フィールドワーク	現状を踏まえたうえで解決すべき課題の検討	
	6月	交流会開始	宵祭企画草案作成	
	7月	交流会の継続	宵祭企画詳細決定、準備	
	8月		宵祭企画本番	
	9月		宵祭企画のフィードバック	
	10月	交流会の継続	クリスマス会草案作成	
	11月	交流会の継続	クリスマス会詳細決定、準備	
	12月		クリスマス会本番	
	2018年	1月		クリスマス会のフィードバック 引継ぎ

## 2 成果達成度

横のつながりを生み出すために定期的な交流会の開催を行い、その交流会を活かして、モノづくりに携わる人達を中心に縦のつながりを生み出すためのイベントを企画・運営した。

### ①交流会

春・秋学期を通して、計9回の交流会を開催し合計参加人数は35人であった。この交流会は、モノづくりに携わる方々を中心に呼びかけ、西陣のモノづくりを互いに知って貰うことで、モノづくりの街としての西陣の魅力を高めてもらう「横のつながり」を強化することを目的とした。また、ただ交流するだけではなく、西陣地域の小学生を対象としたイベントを企画することで、より一体となって活動する動きが促進されるようにした。結果としては、この場で知り合った方々が、交流会以外でも交流する姿なども見受けられ、新しいモノづくりを知ることができてよかったという声をきくことができた。



一方で、秋学期では参加者が減少傾向にあったため、継続した交流会運営のための方法などを最終回で参加者と共に検討し、フィードバックすることで対策をとった。

### ②織姫七夕祭宵祭企画

春学期の主なイベント。今宮神社の織姫七夕祭にちなんで、主に西陣地域の小学生を対象としたイベントなどを行った。内容としては、モノづくりをしている工房の見学・体験、親子での流しそうめん、また祭事の参加者に向けて行った奉納品の展示である。小学校や児童館を中心に広報し、工房の見学・体験では65人、流しそうめんでは57人が参加してもらえ形となった。その後実施したアンケート調査からは、普段なかなかできない体験ができて楽しかったという声があり、地域住民へのモノづくりの街としての普及の橋掛けになったといえる。一方で、各工房に分かれて参加する形であったことから、各工房での参加数にばらつきが生まれるなどの現象が起きた。



### ③クリスマス会

秋学期の主なイベント。春学期の反省点である参加数のばらつきを防ぐために、一つの場所を借りて一体感のあるイベントを催した。内容としては、工房で余った材料を用いて行うツリーのオーナメント作り、西陣についてのクイズ大会、巻王の疑似体験である。参加者ははじめに予定していた人数を超え31人となり、また当日手伝いに来てくださったモノづくりに携わる地域の方々も15人おり、徐々につながりが生まれていることを実感できる結果となった。



# 3 プロジェクトを通じて

当プロジェクトは、課題と目標だけをみればとても長い期間を要するものであり、私たちが1年活動するだけでは到底たどり着けないものである。しかし、私たちは1年間だけしかこの西陣地域活性に携わっていないのにも関わらず、たくさんの西陣地域の魅力を感じることができた。またその魅力を発信していきたいという思いのある人や、知りたいと思う子供たちの姿を見ることができた。そしてそういった思いのある人たちを結びつけることで、賑わいのある西陣地域の展望が開けてくると感じた。実際にこの1年でどんどん地域の方の中での「モノづくりの街 西陣」という価値観が増幅し、さらなるつながりが生まれているように感じる場面も見られた。この1年間の活動が、その結びつきの橋掛けとなったことを実感しつつ、最後には継続を見越した交流会の場を設けることができよかったと感じている。



## 編集後記

改めて1年を振り返るとあっという間でした。メンバーも他のプロジェクトに比べると少なく、本当に一人ひとりが自分の長所を活かし活動できたと思います。また、メンバーで話し合うことにより互いを支えあい、さらには先生方や地域の方々に様々なことを教えていただいたからこそ、この場に成果として報告できるのだなと実感しています。読んでくださった方にはぜひ一度、「モノづくりの街」という視点を持って西陣地域に足を踏み入れていただきたいです。ありがとうございました。

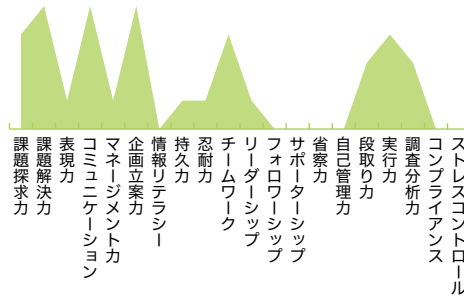
## プロジェクトメンバー

天野 愛理(法3) 平岡 瑞貴(法3) 池田 瑞穂(法3) 岡本 万里奈(経済2) 岸 結太郎(グローバル地域文化4)  
田村 将士(グローバル地域文化4) 福原 隆一(TA)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

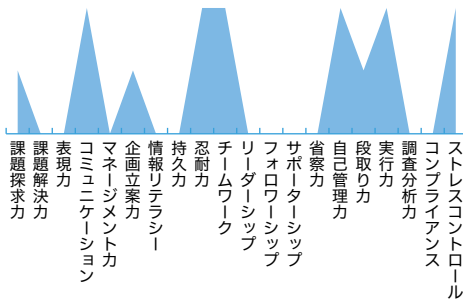
### 授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

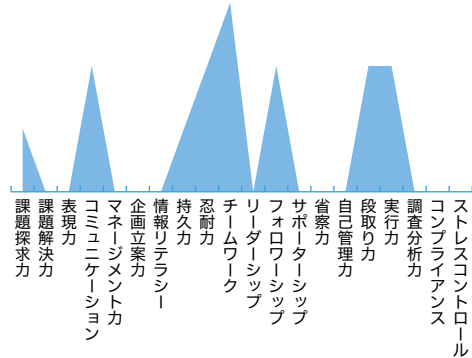


### 春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



### 授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

